

contents

輸出成功事例：山口の地ビールを世界へ
山口地ビール株式会社（山口市）

新輸出大国コンソーシアム事業について

釜山・青島派遣レポート

ビジネスサポーター

発行 (一財) 山口県国際総合センター
山口県日中経済交流促進協会
日本貿易振興機構(ジェトロ) 山口貿易情報センター

内容についてご意見、ご質問があれば、下記までお問い合わせ下さい。
(一財) 山口県国際総合センター
山口県下関市豊前田町3-3-1
TEL083(231)5778 FAX083(231)5787

メッセ海外通信

INTERNATIONAL NEWS

KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI

(一財) 山口県国際総合センター・山口県日中経済交流促進協会・日本貿易振興機構(ジェトロ)山口貿易情報センター

MESSE

輸出成功事例：山口の地ビールを世界へ 山口地ビール株式会社（山口市）

山口地ビール株式会社は、1997年設立、山口の天然水を使って、地ビール（クラフトビール）を製造している。同社の代表取締役 中川弘文社長は、かねてから海外ビジネスに関心があり、2015年10月 台湾で開催された「ビアフェスティバル」への出展をきっかけに、台湾向けに初めての輸出を成功させた。

山口地ビールの特徴は、同社工場のすぐそばにある天然ミネラルを多く含む鳴滝の銘水を使い、製造では最も重要なビール酵母の仕込みにこだわり、手間のかかる2段発酵（主発酵と貯酒）を行っている。濃厚なコクと香ばしさが特徴となる同社のクラフトビールは台湾のビアフェスティバルでも高く評価された。

台湾側との商談では、初めての輸出ということもあり、不明な点が多く、ジェトロ山口の貿易相談を受け、支払い条件・輸送方法等をひとつひとつクリアにしていき、今年6月 瓶ビール（330ミリリットル）、6,720本を出荷することが出来た。初出荷分は、ピルスナー、ペールエール、ヴァイツェン、スタウトの4種類。ラベルには山口県の観光地である「瑠璃光寺」、「大正洞」、「景清洞」、「秋芳洞」をデザインしたものを貼り、山口県観光のPRにもなっている。

台湾への輸出を機に、海外展開を本格的に始動させた。2016年5月、「新輸出大国コンソーシアム事業」のエキスパート支援に採択され、積極的に海外販路開拓を行っている。本事業は、海外ビジネスに精通した人材を専門家として配置し、その専門性を活かして、企業の海外展開



（台湾で販売されている山口地ビール）

戦略策定から現地販路開拓までの個別支援を行うものである。

専門家支援を受ける中で、2016年6月「ジェトロ酒類輸出商談会 in 大阪」に参加、オーストラリアのバイヤーと商談する機会を得た。ここでも同社のクラフトビールは評価され、見事成約に結び付けることができた。台湾に続き、2か国目となるオーストラリアへの輸出は、2016年12月、3,360本出荷される。

米国市場への開拓に向けて

次に掲げる目標は、現在、クラフトビール市場が急成長している米国市場への参入だ。こだわりのある製法や種類の多さ、新鮮さなどを特徴とするクラフトビールは人気が高く、米国市場では、2015年までの5年間で年平均20.1%の急成長を遂げた。クラフトビールの輸入も大きく増加しており、2011年から5年間の年平均成長率は18.1%。2016年の輸入額は7億8,720万

ドルまで伸びる見込みである。また、海外では、ユニークな商品が注目されており、人気が高い傾向にある。



(米国視察の様子 代表取締役社長 中川弘文氏)

山口地ビールでは、県産の夏みかんや柚子、梨などを使用し、ユニークな「地発泡酒」の新製品開発も行う方針だ。生産能力は、新たな設備増強を行い、地ビール・地発泡酒合わせて現在の3倍に引き上げていく予定である。こうした中、米国西海岸地方をターゲットとして、ジェトロの専門家とともに渡米市場調査や現地での商談等を進めており、今後さらなる輸出拡大が期待される。

(ジェトロ山口／内山佳世子)

新輸出大国コンソーシアム事業について

ジェトロ山口では、「新輸出大国コンソーシアム事業」による専門家支援を希望する企業を随時お受けしております。

本事業の専門家支援は、その機能に応じて「パートナー」と「エキスパート」に分かれています。(1)「パートナー」支援は現地法人の立ち上げ、操業支援まで一貫したサポート（ハンズオン支援）を行う専門家です。(2)「エキスパート」支援は、事業者の課題やケースに応じた支援を、産業分野や特定分野に精通した専門家が随時個別支援を行います。特定テーマでは、基準認証、外国人材活用、貿易実務指導、eコマースなどの経験豊富な専門家が配置されております。

新輸出大国コンソーシアム事業をご利用いただくにあたり、ご不明な点がございましたら、ジェトロ山口（TEL：083-231-5022）までお問い合わせください。

JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

はじめての海外進出に、
今度こそ成功させたい輸出に、
頼れるパートナーがいます。



商社やメーカーで海外事業の実績を積んだ、
各分野の専門家が貴社の味方に。

利用
無料

専門家による個別支援サービス

新輸出大国コンソーシアム

新輸出大国

検索



お問い合わせ先：ジェトロ山口

083-231-5022

www.jetro.go.jp/consortium/

「新輸出大国コンソーシアム」は、政府系機関、商工会議所、地域の金融機関などの支援機関が連携し、海外経験豊富な専門家の知見も活用しながら中堅・中小企業に寄り添って海外展開を支援する体制です。ジェトロが事務局を務めています。

海外展開をご検討中なら、 どんなことでもご相談ください。



こんなことまで
相談できるん
ですね？

- 海外展開したいが本当に行くべきか迷っている。
- 海外展開を決めたが何から始めるべきかわからない。
- 行き当たりばったりではなく、きちんとした計画を立てて進めたい。
- FS調査、コストシミュレーションを実施したい。
- 物件、人材、現地パートナー、新規顧客を探したい。
- 輸出実務、法人登記、契約締結などの手続きがわからない。
- 何を相談していいかもわからない。

新輸出大国コンソーシアムとは？

「新輸出大国コンソーシアム」は、政府系機関、商工会議所、地域の金融機関などの支援機関が連携し、海外経験豊富な専門家の知見も活用しながら中堅・中小企業に寄り添って海外展開を支援する体制です。

🌐 海外支援をワンストップで！

これまで各々の機関が行っていた支援サービスを連携させ、海外展開についてのあらゆる不安や疑問の解決につなげます。

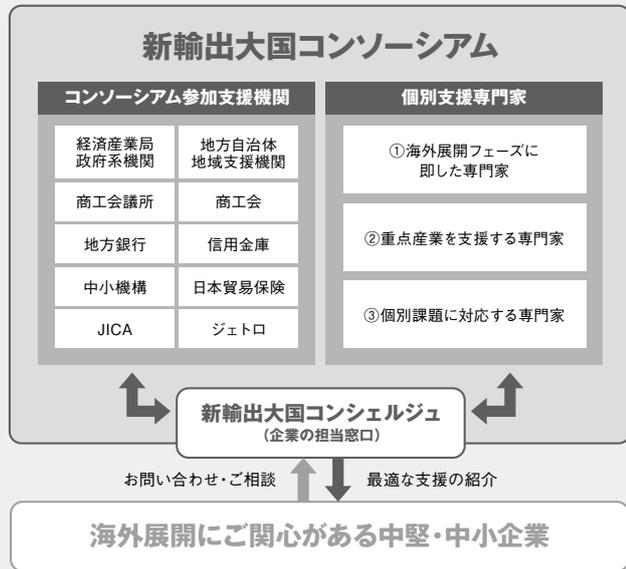
🌐 各分野の優れた専門家を活用！

海外展開フェーズに即した専門家、重点産業を支援する専門家、個別課題に対応する専門家が企業のニーズにあわせて、海外展開をサポートします。

※専門家の相談料、国内外出張費はジェトロが負担します。

🌐 貴社担当のコンシェルジュがつく！

貴社にとって最適な支援メニューや人選をサポートします。どんな小さな不安や疑問にも丁寧にお答えします。



利用
無料

これまでの成功事例も多数紹介いたします。
まずはお気軽にご連絡ください。

ジェトロ山口

TEL:083-231-5022
www.jetro.go.jp/consortium/



釜山・青島派遣レポート

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)

主任 阿部 さおり

～下関市と釜山広域市の姉妹都市締結40周年記念行事～

アンニョンハセヨ！

前回の記事でもお伝えしましたが、今年下関市と釜山広域市の姉妹都市締結40周年です。これを記念して、両市の市長がお互いの市をそれぞれ訪問しました。

まず、8月20日に下関市で行われた朝鮮通信使行列再現行事では、その正使役として徐秉洙（ソ・ビヨンス）釜山広域市長にご参加いただきました。本行事は、室町時代から江戸時代にかけて朝鮮王朝から送られてきた使節団の行列を再現したもので、色鮮やかな衣装をまとった日韓の参加者約200名が太鼓や銅鑼を鳴らしながら、市内を行列するものです。2004年から馬関まつりと併せて行われるようになり、「善隣友好・誠信交隣」の精神のもと、両市の市民レベルでの交流を一層深める馬関まつりの主要なイベントの一つになっています。翌日には、徐市長へ下関市国際親善名誉市民の称号が中尾友昭下関市長より贈呈されました。

また、10月18日に釜山広域市で行われた下関市と釜山広域市の姉妹都市締結40周年記念式典には、中尾市長を団長とする88名の市民訪問団の皆さんが出席されました。

記念式典は、海雲台グランドホテル22階のスカイホールで行われました。式典に先立ち、中尾市長と徐市長の会談が行われ、今後の下関市と釜山広域市の姉妹都市関係のみならず、日本と韓国の関係についても今後も良好な関係を築いていくことを約束し、固い握手を交わしました。

記念式典では、開会宣言から始まり、両市の交流状況の説明、徐市長から中尾市長へ釜山広域市名誉市民証の授与が行われました。続いて、両市長の挨拶、両市議会議長からの祝辞などをいただいた後、両市の職員がそれぞれの市旗を掲げ入場しました。引き続き、両市の交流公演が行われ、下関市側の公演として、下関舞踊協会による「上臈道中」が披露されました。禿、官女、太夫が音楽に合わせて入場し、太夫が外八文字を踏む姿はとて美しく、釜山の方々も目を奪われている様子でした。ステージで披露された舞も素晴らしく、徐市長は熱心に見入られ、最後にサプライズでプレゼントされた舞扇をとてうれしそうに受け取られていました。続いて、釜山広域市市立公演団のダンスが行われました。下関の方でも楽しめるようにと、日本でも有名な韓国の曲「アリラン」や「釜山港へ帰れ」などにあわせて素晴らしいダンスを披露し、大盛況のうちに式典を終えることができました。



下関市国際親善名誉市民証の贈呈（下関市）

このように、40周年を迎えることができたのも下関市と釜山広域市の先人の皆さんのご努力の賜物であり、両市民一人一人の交流の積み重ねの結果であると思います。この友好的な姉妹都市関係を絶やすことなく継続していけるよう、派遣職員として微力ではありますが、責務を果たしていきたいと思っています。



釜山広域市・下関市 姉妹都市締結40周年記念式典（釜山広域市）

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）

主事 和木田 真 功

中国の小学校を訪問 ～日本との違いは？～

今回のテーマは、「中国の教育事情」です。以前、中国の小学校を訪問した際の体験談や、日本との違いなどをご紹介します。

1. 日本との教育制度の違い

日本と中国の教育制度の大きな違いとして「担任制度」があげられます。日本の小学校では担任の先生が主教科を教える「学級担任制」が一般的ですが、中国では異なり、各科目、それぞれ専任の先生が授業を行う「学科担任制」で授業を行っています。

また英語教育に関しても、日本と比べ熱心であるとの印象を受けました。中国では2001年より、小学3年生からの英語教育が始まりました。私が小学校を訪問した際、5年生の英語の授業に参加しましたが、私と一緒に訪問した英語圏の学生と、熱心に交流する様子を見て中国の小学生の英語力の高

さに驚きました。

2. ピンポン体操

私が訪問した学校では、全校生徒が校庭に集合し、卓球の一連の動作を行う「ピンポン体操」を行っていました。最初は何も持たず、素振りの動作を行い、その後はラケットとボールを使い、ボールをラケット上で何度もバウンドさせていました。低学年の児童でもそつなくこなす様子は、さすが卓球王国といったところでしょうか。

3. 登下校時の交通事情

中国では登下校にスクールバスを使うか、あるいは両親もしくは祖父母が送り迎えをします。また子供の安全面の確保のため、スクールバスの停留所には必ず誰かが迎えに来ます。スクールバスを使わず、自家用車で迎えに来る親も多く、下校時の学校付近は、おびただしい数の人や車が集まります。(右図参照)狭い道では渋滞の原因にもなり、下校時になると、警備員が交通整理をしています。



日本では、小学生であっても自分の足で歩き、登下校するのが一般的ですが、これは中国人にとっては驚きのようで、「誘拐されないのか?」「事故にあわないのか?」などといった疑問を持つ人もいます。中国メディアで「日本の親はなぜこれほどまでに心臓が強いのか。」という疑問が投げかけられたこともあります。誘拐や事故が全くないわけではないですが、改めて日本の治安の良さを実感します。

家庭によっては、お金を惜しまず、子供を学校外の英語や様々な習い事に通わせている場合も多いと聞きます。日本でも塾や習い事等に通う子供も少なくありません。教育制度や環境に違いはあれ、子供の抱えるストレスは万国共通かもしれません。